

氏名	前 島 邦 子		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 720 号		
学位授与の日付	昭和50年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	Frank 法ベクトル心電図による高度左軸偏位の検討 (左脚前枝ブロックを中心として)		
論文審査委員	教授 大藤 真	教授 平木 潔	教授 砂田輝武

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

高度左軸偏位は主に左脚前枝ブロックに起因するといわれているが、この関係が強調されるあまり、心電図上に高度左軸偏位があると直ちに左脚前枝ブロックと診断される傾向がある。そこでQRS巾が0.12秒以下で、QRS電気軸が $-30^{\circ}$ ～ $-90^{\circ}$ の心電図を示す101例を対象とし、Frank法ベクトル心電図を用いて、両者の関係を検討した。

その結果、1) 高度左軸偏位例のQRS環は一様の形態でなく、主部と終期部分の部位によって前額面で7種(F-1～F-7)、水平面で6種(H-1～H-6)に分類できること、2) 約3分の1の症例は左下方から右上方に細長く、右室あるいは左室後基部の興奮遅延による左軸偏位と考えられるF-1, 2であること、3) F-5, 6が左脚前枝ブロックの特徴を示し、F-3, 4も左上方偏位の程度は軽いが同様の所見を有すこと、4) SI SII SIII型心電図が25例にあり、その多くは左前下方から右後上方に細長いQRS環を有すこと、5) KullbertusらとRosenbaumらの左脚前枝ブロックの基準に合致する症例は各々35例と24例であるが、QRS環は特定の形態でなく、ともに3分の1がF-1, 2であること、6) F-5の9例中全例がQRS電気軸の範囲の広いKullbertusらの基準に合致するが、範囲の狭いRosenbaumらの基準では2例しか該当しないことが認められた。したがって左脚前枝ブロックの診断にはQRS電気軸よりQRS環の形態を重視する方が望ましい。

#### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はFrank法ベクトル心電図により高度左軸偏位と左脚前枝ブロックの関係を研究したものであるが、従来十分確立されていなかった高度左軸偏位の意義について、とくに左脚前枝ブロックとの関係について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。